

# V. (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の事業活動(2007年度)

長村 文夫

(財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団事務局)

## はじめに

本報告を作成している時点(2007年11月20日)で、2007年度の事業のうち実施予定日が未到来のものがいくつかあり、その意味で本報告は中間的なものとなることをご了承いただきたい。なお、当財団では毎年、年度終了2~3カ月後に「事業報告書」を作成配布している。

当財団の事業も第8期目となり、その間、調査研究事業、研修事業をはじめとするいくつかの事業を財団の中核的の事業として継続するとともに、絶えず新規の事業を採り上げることによって事業活動全体の活性化を保つよう心がけている。また、本年は世界ホスピス・緩和ケアデーが設定されて2年目ということで、日本ホスピス緩和ケア協会、NHK厚生文化事業団、NHKと当財団の4者主催のフォーラムを東京で開催した。

以下、個別の事業毎に実施報告ないし予定の概要を下記する。なお、文中のお名前は順不同、敬称を略させていただいている。

### 1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業

進行中の調査研究事業は次の6件である。

①外来化学療法を受けているがん患者の緩和ケアスクリーニングシステムの有用性に関する研究

②ホスピス・緩和ケアにおけるリハビリテーション評価表作成のための調査研究

③ Staff grief and support system for Japanese health care professionals working in palliative care

④有床診療所におけるホスピスケアについての探索的研究—いかにして継続的終末期ケアと在宅死を可能にしているのか?

⑤緩和ケア病棟における死別後1年以内の遺族が抱く「看取り体験」への主観的評価と変革につ

いて

⑥ホスピス・緩和ケアへの移行を検討するがん患者の家族に対するケアのあり方に関する研究

本年度は公募制度を採択して2年目で、事業委員会の審査段階で申請18件から8件を採用したが、その後、研究者の健康上の理由での辞退が2件あった。

### 2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究事業

3カ年計画で昨2006年度にスタートした研究事業で、ホスピス・緩和ケア施設あるいは在宅ホスピスなどにおいて死亡された患者についての遺族からみたケアプロセスに対する評価、患者の quality of dying, 遺族の介護体験・ quality of life の評価、評価の施設間差と施設間差を生ずる要因などを明らかにし、改善点を知るための基礎データを得ることなどを目的とする。アンケート調査から数値的に算出することにより、わが国のホスピス・緩和ケア病棟、在宅施設におけるホスピス・緩和ケアの実体を明らかにすることを目的としており、これまでに全国の約110の施設・クリニックを経由して約8,000名の患者の遺族に調査票を送付し、協力を依頼している。

### 3. ホスピス・緩和ケア教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者のよりいっそう高い専門性の確立を目指して、講義とワークショップなどのプログラムで行う。受講対象は緩和ケアに従事する医師、看護師、コメディカルである。2002年度からの継続事業で、本年度は次の通り実施された。

日時：2007年10月13日(土)~14日(日)

場所：北海道経済センター、札幌グランドホテル

参加者：71名

#### 4. 緩和ケア実践セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者以外の地域の病院、クリニックなどの一般の医療従事者、訪問看護師などを主たる対象にして、緩和ケアについて学ぶ機会を提供することを目指し、2001年度の財団事業として刊行配布した『がん緩和ケアに関するマニュアル』を教材にして、2002年度に第1回のセミナーを東京で開催、以来、毎年度継続して実施しているプログラムで、2004年度以降は対象者からの要望に応えるかたちで毎年度2回、2006年度には3回、そして本年度は4回、全国各都市で開催している。

① 2007年10月27日（土）大阪市 大阪大学コンベンションセンター、参加者208名

② 2007年12月8日（土）仙台市 医師会館

③ 2008年1月12日（土）松本市 信州大学内会議室

④ 2008年1月26日（土）徳島市 東急イン

#### 5. ホスピス・ボランティア研修事業

ホスピス・緩和ケア病棟でのボランティアの働きは一般病棟のそれと必ずしも同じでないことに鑑み、その向上を目指して、全国病院ボランティア協会との共催で2002年度に大阪で全国大会を開催して以来毎年度継続して開催している。2003年度は福岡、静岡、京都、2004年度は東京、2005年度は鹿児島と札幌、2006年度は広島と岩手、本年度は神戸というように全国各地で開催してきている。

2007年5月19日（土）神戸国際会議場、参加者294名

#### 6. ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す実践セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア病棟におけるソーシャルワーカーのスキルアップをはかるためのセミナーで、このプログラムは2005年度に東京で第1回を開催、2006年度は東京と山口市で開催、本年度は札幌と大阪で開催された。

① 2007年5月13日（日）札幌市教育文化会館、参加者39名

② 2007年11月17日（土）～18日（日）大阪市 新丸ビル、参加者72名

#### 7. 医学生の緩和ケア教育のための教員セミナー助成事業

医学生の緩和ケア教育にあたる教員および今後、緩和ケア教育を行う予定のある教員を対象とするセミナー（「大学病院の緩和ケア教育を考える会」主催）を支援助成する事業で、2004年度から継続している。

2007年10月27日（土）～28日（日）東京昭和大学病院、参加者41名

#### 8. ホスピス・緩和ケア病棟師長のための教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア病棟の看護師長たちが現場で直面するスタッフの教育や緩和ケア病棟の地域連携など、ホスピス・緩和ケア病棟の看護管理に関連する問題点を明確にし、互いに課題を共有するための講演とワークショップを内容とするセミナーで、2005年度からの継続プログラムである。

2007年10月26日（金）～27日（土）アルカディア市ヶ谷、参加者28名

#### 9. グリーフケア研修会開催事業

遺族ケアの研修会などでは通常、ケア援助者個人のケアのあり方などにだけ焦点が当てられるが、実際の遺族ケアの実施には施設・機関の理解や協力なしには難しい部分が少なくない。この研修会のプログラムでは施設・機関として取り組むことのできるグリーフケアについて考え、それぞれの施設・機関でできるグリーフケアプログラムの作成を最終目標としている。

2008年2月2日（土）龍谷大学 大宮学舎

#### 10. STAS (Support Team Assessment Schedule) ワークショップ開催事業

英国で開発されたケアの評価方法である STAS 日本語版を用いて、ケア従事者を対象に「毎日のケアを見直すための演習と講義」のワークショップで、第1回は2005年度に実施、以来、継続して毎年開催している。本年度は11月熊本でのワークショップの開催に先立ち、STAS-J スコアリングマニュアル第3版の作成と配布を実施した。

2007年11月11日（日）熊本市 熊本県立劇場、参加者320名

#### 11. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を、

医療従事者と共に一般の方々にも深めていただくために、講演とパネルディスカッションを軸としたプログラムで開催する。このプログラムは財団設立以来、毎年継続して開催しており、昨年度までに19都市で開催してきている。

2008年3月1日(土) 横須賀市 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

## 12. 『ホスピス緩和ケア白書 2008』 刊行配布事業

2003年度以来、毎年、特定のテーマを掲げ、そのテーマを中心とした論文集を中心に編集されており、2007年度のテーマは「緩和ケアにおける医療提供体制と地域ネットワーク」(仮称)を予定している。2008年1月に1,500部を刊行し、従来同様、日本ホスピス緩和ケア協会の会員病院、がん診療連携拠点病院、厚生労働省、都道府県・市の健康福祉担当課、財団賛助会員などに配布を予定している。

## 13. 一般広報活動事業

『財団ニュース』第13号を11月に発行、次号は2008年3月末の予定である。2006年度の事業報告書をホームページに追加掲載した。また、2006年度の調査研究事業の成果報告を12月に掲載予定である。

## 14. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査(第2回) 準備委員会

『ホスピス・緩和ケアに関する意識調査』を2005年度に実施したが、2008年度にも同様の意図での調査を計画しており、その準備委員会を発足し、2007年8月と11月に打合せを実施した。

## 15. APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業

アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア活動を推進し、その質を向上させるためにシンガポールに設立された法人であるAPHNの活動を、2001年度より継続して支援している。

## 16. ホスピスフォーラム(福岡) 開催助成事業

特定非営利活動法人 栄光ホスピスセンター(福岡)が開催するホスピスフォーラムを助成した。

2007年10月20日(土) 福岡市 ナースプラザ福岡, 参加者 413名

## 17. 特別プロジェクト「世界ホスピスデー」フォーラム

「世界ホスピス緩和ケアデー」を、毎年10月第1土曜日とすることが2005年3月の韓国での第2回グローバルサミットで決められた。日本ホスピス緩和ケア協会ではそれに先立つ1週間を「ホスピス緩和ケア週間」として、ポスターを作成配布し、各病院・施設などにホスピス・緩和ケア啓発のための各種プログラムの実施を呼びかけを行った。当財団もこれに応えるかたちで、同協会、NHK厚生文化事業団及びNHKとの共催で、10月6日(土)の「世界ホスピス緩和ケアデー」に笹川記念会館(東京・港区)でフォーラムを開催した。

2007年10月6日(土) 東京 笹川記念会館 国際会議場, 参加者 約500名

テーマ 「がんとともに生きる一痛みのない  
穏やかな日々」

第1部 「がんの痛みはこわくない」

第2部 「音楽でつなぐ命の響き」

---

## おわりに

当財団は2007年9月に、公益の増進に著しく寄与する事業を行っている法人ということで厚生労働大臣から「特定公益増進法人」の認定を受けることができた。これにより、当財団への寄付に税法上の優遇措置が与えられるので、財団の財政にメリットとなる。しかし、このことは財団の事業活動が今後一層、公益に資するよう計画・運営されなければならないことを意味するわけで、そのような視点から従来の事業の見直しも含め、事業の一層の充実、活発化を図りたいと願っている。

現時点において未達のものもいくつかあるものの、概ね順調に計画に沿って進捗していることを報告するとともに、本年度も多くの方々のご支援、ご協力を得て当財団の事業が進められてきていることを覚え、感謝します。